

「地場産業を知ろう」第22回 学生レポート

株式会社 はせがわ美術工芸

直方が誇る巧の技術。その高い技術力のルーツに迫る…

市民の方に地場産業を知ってもらおうと北九州市立大学の学生が市内企業取材しました。今回は寺社仏閣の修復を中心に行っている株式会社はせがわ美術工芸を紹介します。

株式会社はせがわ美術工芸の歩み

- 昭和52年10月 株式会社長谷川仏壇製作所より分離独立し、寺院工事を行う株式会社長谷川仏具工芸として発足
- 昭和59年 本願寺阿弥陀堂(国重要文化財)の昭和の大修復を行う
- 平成3年9月 商号を株式会社はせがわ美術工芸に変更
- 平成13年 京都の清水寺より御用達の任命を賜る
- 平成17~20年 本願寺御影堂(国重要文化財)の平成の大修復を行う
- 平成23年 株式会社はせがわ仏壇工房と合併

インタビュー



神崎茜さん、宮崎萌美さん、有田美月保さん
(いずれも北九州市立大学4年生)

トップインタビュー

Q1 企業理念について教えてください。

私たち「はせがわグループ」は、創業の精神として①信用本位、②感謝報恩、③よろこびのあきないという3つを掲げています。我が社はグループ内で寺社仏閣の修復を中心に行っていて、**お客様本位、本物志向で仕事をしています。**お客様の希望に沿うように最大限の努力をしますが、費用を安くするために品質を落とすような工事は受けられない場合もあります。

また、寺社仏閣の修復に携わっていることから、**日本の伝統文化の維持、承継**が我が社の使命であると考えています。



代表取締役社長 秋吉 泰良さん

Q2 現在の経営体制に至るまでに力を入れてきたことを教えてください。

一般社団法人 寺社建造物美術保存技術協会という漆塗り等の建造物装飾の維持や承継を目的とした団体に属しています。全国20社程度の加盟企業が技術力を維持・向上するための勉強会を行い、相互協力体制を構築しています。

そして、名誉会長の白木弘美が、平成28年秋の褒章で「黄綬褒章」を賜りました。単独の会社から受章者ができるのはとても稀なことです。これは個人力だけでなく、社員の協力もあったからこそだと考えています。このように**社員が研鑽する高い技術力こそ、我が社の強み**と言えると思います。

Q3 どのような経緯で直方に会社を設立したのですか。

かつて炭鉱が盛んだった直方では、採掘中の事故により多くの人命が失われました。その方々を供養し、事故が起こらないように祈願するため、**仏壇の需要**が多くなりました。例えば、古町にある圓徳寺の仏壇は直方の炭鉱王である貝島太助氏の仏壇を移設したものです。仏壇の需要を満たすために職人を雇って製作と販売を始めたのが、親会社「株式会社はせがわ」の始まりです。その後、仏壇を製作する工場を建てました。この工場が我が社の前身です。



随所に光る匠の技



金箔の修復作業の説明に興味津々

企画開発部長 中川洋昌さん



本社前で記念撮影



秋吉社長の熱い説明に引き込まれます

社員に直撃取材

若手社員に仕事についての想いをお聞きしました。

製造部で文化財の修復をしています。先人が作った有名な文化財を自分が修復することができ、とても光栄で、やりがいを感じています。私の父も同じ業界の職人で、父のような仕事に熱意を持った職人になりたいとこの道を選びました。この業界に入って10年になりますが、文化財の修復はとても難しく、まだまだ研鑽が必要です。我が社は年齢層も幅広く、コミュニケーションもとりやすい職場なので、先輩から多くの技術を吸収して成長したいです。



技術部 吉村 拓磨さん

Q4 どのようにして国重要文化財の修復を任されるまでの信頼を得たのですか。

寺社仏閣の本場である京都とは異なり、技術の蓄積がなかったため、**一から勉強**しなければなりません。どうすれば京都に追いつけるのか、京都にできないことは何なのか…試行錯誤の連続でした。そんな中、北九州市門司区の本願寺鎮西別院から、京都に依頼すると間に合わない仕事の相談を受け、**やり方を工夫して期間内に納めたことで信頼を勝ち取り**、昭和59年の本願寺阿弥陀堂の修復依頼の受託につながったのです。

Q5 現在取り組んでいること、今後取り組みたいことは何ですか。

我が社の製品が**FSC認証**されることを目指したいと考えています。FSC認証とは、適切に森林の管理が行われ、そういった森林からの資源で製品が作られている場合に与えられます。

2020年のオリンピックの建築物にもこの木材が使用されています。我が社もFSC認証された木材を使用することで、お客様に信用される商品を提供する企業になりたいと考えています。

取材を終えて

少しのズレや手間を見落とさず、妥協しない姿勢に日本の伝統技術を大切にしている仕事だと思いました。実際に金箔を貼る体験をさせていただきましたが、とても難しく、職人の技術の高さを実感できました。(神崎 茜)

直方にこのような企業があることを知り、驚きました。工場見学で修繕中の寺社仏閣の一部を見ることができたことや金箔を貼る体験をさせていただいたことが勉強になりました。(宮崎 萌美)

皆さんが誇りを持って仕事をしていることが伝わってきました。金箔を貼る体験をさせていただきましたが、とても難しく、長年の努力で培われた技術だと感じました。(有田 美月保)

問い合わせ

- インタビュー企業…株式会社はせがわ美術工芸
- 所在地…中泉 885-26
- TEL…26-7211 ●FAX…24-7211
- ホームページ…www.art-hasegawa.co.jp

記事についての問い合わせ…商工観光課工業振興係

- TEL…29-3155 ●FAX…29-3156
- メールアドレス…n-kogyo@city.nogata.fukuoka.jp